

## 文部科学大臣杯・国土交通大臣杯 国際交流日本ジュニアヨットクラブ競技会2018 別府市で開催

今年の国際交流日本ジュニアヨットクラブ競技会は、大分県別府港北浜ハーバーを会場として、8月3日から3日間の日程で開催されました。この競技会は、全国のジュニアヨットクラブと海外チームのジュニアセーラー達が一堂に会して毎年実施されているものです。

九州地区で初めての開催となる今年の競技会は、オーストラリア、ニュージーランド、香港、韓国の海外招待の4クラブそして国内から参加の12クラブ86名の選手たちが真夏の別府湾で交流の輪を広げました。

初日の開会式では、石原伸晃JJYU会長の英語と日本語の挨拶の後、佐藤精知夫JJYU副会長から、別府市は佐藤文生前会長の出身地であることが紹介されました。その後の役員やご来賓のあいさつのあとに、石原伸晃JJYU会長立ち会いの下、少年ヨット憲章「山中湖宣言」を葉山町セーリング協会の4名の選手たちが読み上げました。そしてB&G別府海洋クラブ岩下稔くんの力強い選手宣誓で3日間にわたる真夏の競技会の幕が切っておとされました。

開会式が終わり日が暮れて少しは過ごしやすくなった頃、ヨットハーバーに隣接する北浜公園で国際交流会が開催されました。今年の日玉はソーメン流しと目の前で実演されるマグロの解体ショーです。ソーメン流しでは、海外からの選手達達も慣れない箸を使いながら竹の樋を流れてくるソーメンを美味しく食べていました。またアトラクションでは地元のAPU(立命館アジア太平洋大学)のサークル「エイサー団いちやりば」のメンバーが、沖縄の伝統芸能エイサーの太鼓と踊りを披露し、会場全体が一体となったとても明るい国際交流が繰り広げられました。



別府港北浜ハーバー



佐藤副会長挨拶



B&amp;G別府海洋クラブ岩下稔くんの選手宣誓



葉山町セーリング協会の4名の選手による少年ヨット憲章「山中湖宣言」



流れてくるソーメン真剣に取り組む選手たち



津久見港に水揚げされたメバチマグロの解体の実演



別府市にキャンパスがあるAPUの学生のみなさん

競技会2・3日目は、A海面でOP級上級者、レーザー4.7、国際420級、FJ級、B海面でOP級初級者のレースを行いました。A海面は全クラスとも合計3レース、B海面では合計6レースを実施。酷暑のなかの3日間でしたが、事前の丸山晴久医療救護委員長による安全講習会で暑さ対策の指導を徹底したことから大きな問題もなく、無事終了することができました。

特別表彰として以下の選手やチームが表彰されました。

- 「文部科学大臣賞状・賞杯」「奥村純雄杯」 OP級上級者 幸野翔太(B&G別府海洋クラブ)
- 「国土交通大臣賞状・賞杯」「小澤吉太郎杯」 OP級初級者 内田 歩(葉山町セーリング協会)
- 「大分県知事賞状・賞杯」 レーザー4.7 河野 大陸(B&G別府海洋クラブ)
- 「別府市長賞状・賞杯」 国際420級 市野瀬真里乃・内田桃花(大分県立別府翔青高等学校ヨット部)
- 「大分県セーリング連盟会長賞状・賞杯」 FJ級 甲斐滉貴・大川慶一郎(大分県立別府翔青高等学校ヨット部)

また、一昨年度から新たに設けられました小澤吉太郎先生の教えに沿うシーマンシップを称える特別賞には個人として宜野湾はごろも海洋少年団の赤嶺一彰さんと平良海咲さん、チームとして神奈川県から17名の選手で参加した葉山町セーリング協会が選ばれました。

海外チームの成績は国際交流個人対抗レースレーザー4.7級では香港とオーストラリア選手が総合1、2位を獲得、OP級上級者ではニュージーランド選手が総合7位という結果でした。



「文部科学大臣賞状・賞杯」  
幸野翔太君(B&G別府海洋クラブ)



「国土交通大臣賞状・賞杯」  
内田 歩さん(葉山町セーリング協会)



「大分県知事賞状・賞杯」  
河野 大陸君(B&G別府海洋クラブ)



「別府市長賞状・賞杯」  
市野瀬真里乃さん・内田桃花さん  
(別府翔青高等学校ヨット部)



「大分県セーリング連盟会長賞状・賞杯」  
甲斐滉貴君・大川慶一郎君  
(別府翔青高等学校ヨット部)



小澤吉太郎特別賞(個人)  
赤嶺一彰君・平良海咲さん  
(宜野湾はごろも海洋少年団)



小澤吉太郎特別賞(団体)  
クラブ:葉山町セーリング協会





オーストラリア チーム



ニュージーランド チーム



石原会長を囲んで記念撮影



香港チーム



韓国チーム